



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,808人
男子 3,364人
女子 3,444人
世帯数 2,300戸
(24年2月末現在)

一年間を振り返り そして、二十四年度にむけて！



二十三年度を顧みて

竜丘地域づくり委員長

中平 龍興

年度当初の飯田市まちづくり連絡協議会に出席して、思いを新たにすることが二つあります。一つは、竜丘は自治会と地域づくり委員会の二つの組織があること、もう一つは竜丘以外の地区のほとんどが基本計画を持つていることです。しかも、既に第二次、第三次を策定しており、地域課題を発表する際、実に自信を持っていくように思えました。竜丘の発表をしながら何か小手先のことを言っているように感じてしまいました。「課題と展望が見えていないからだ」こんなことを感じつつの一年でした。二つの組織の調整のため、現在の合同の企画調整会議(仮称)を試行的に開催しています。

各委員会総括

安全委員会

三浦 廣美

「不安、不審、不備など不の付く事象を取り除くことが地域の安心安全に繋がる」という認識のもとに、年間活動してきました。計画とおり事業展開ができましたが、費やした労力や時間の割に効果が見えてこなかった事業が散見されるため、二十四年度に向けて、実施回数、時期、方法等について検討し、更に充実したものにしていくと考えています。

福祉健康委員会

今村 正道

地域の皆様に少しでもお役にたてる活動を実施すべく、委員研修を手始めに各種事業に取り組みました。地域福祉の充実については、身近な地域での活動が一番大切と、各区で実施しているいきいき教室、サロンの充実等に努め、一方、地域全体で、一人暮らしの高齢者、在宅介護者に対する支援活動も実施しました。健康づくりについては、特筆することとして初の男性対象の講演会を開催したところ、多くの参加者があり、大変好評でした。

環境委員会

今村 康雄

三・一一大震災の直後、竜丘地区の環境委員会役員になったとき、「なにをすればいいんだろうか」考えまわした。福島の実状をテレビで拝見するにつけ、あの瓦礫の山、そして目に見えない放射能汚染の恐怖は、自然災害というよりも、むしろ、かして人災じやないかと思ふようになりました。二十四年度は竜丘住民の皆様のお考えやご意見をお聞きする中でこれらのことに取り組んでまいります。

竜丘公民館長

木下 和彦

先日、前竜丘公民館長木下陸奥氏が「地域と公民館」自治への憧憬」という本を出版されました。この著書から戦後復興期と現在の公民館活動はどう違うのか。現在の公民館活動は何を目



台風の中地域で集団下校を見守る

文化委員会

玉置 一男

数ある行事の中で、第三十三回竜丘市民大学講座に二回、市澤英利校長先生を講師に迎え、「竜丘の地域を見て視野を広げよう」をテーマに開催する事ができました。また、「丘のみちしるべ」を使ったふるさと学習会を5回行い、分館出張も行いました。

また文化祭での分館展示コーナーは、地元の歴史を調査し、当時の写真や地図等をわかりやすくまとめであり、充実したものとなりました。来年度も、竜丘の歴史や文化、自然に目を向けて活動してまいります。

体育委員会

鈴木 運友

残念ながら、雨によってパタンクが中止になってしまった夏季スポーツ大会では、久しぶりに体力テストを取り入れてきました。二年ぶりとなった運動会では綱引きに変わって大縄を使った新種目「せーのでジャンプ」を行ってきました。総合優勝は長野原分館で前回二位のリベンジを果たしました。

さて、今年度の公民館活動を振り返ってみると、復興期の活力ある公民館活動とは大分異なっています。そうさせている一番の要因は、時代背景ではないだろうかと思ひます。とは言え、地域社会にある問題を把握し、「問題解決の学び」こそが公民館の命であるという真理は不変です。その基盤になるのは、お互いが知り合うことだと私は考えます。「知りあつて触れあつて 学びあおう」は現代にマッチしたよいスローガンです。このスローガンに沿って、地道な公民館活動を継続していきます。

育成委員会

林 和志

年度当初は初めてのメンバーも多く、分からない事だらけの中、何とかしなければと空回りしていたような気がします。それでも無事年間事業を終えることができたのは「地域の子供は地域が育てる」との思いを持った皆さんのご協力があったからだ、と感じております。キツイ作業も多く、ご参加いただいた方々には大変感謝しております。来年度は今年中止となつてしまった「水辺の楽校イベント」を何とか成功させ、他の事業と共に子供たちの楽しい思い出、育成に貢献できたらと考えております。

民俗資料保存委員会

下平 久雄

竜丘小学校に保存されている大正期の優れた「児童自由画作品」が瀕死の状態にあります。このかけがえのない先人の遺産を保存しようとして「竜丘児童自由画保存顕彰委員会」を立ち上げた参画しました。竜丘の財産として受け継ぎ、明日を担う子に資する手だてを講じたいと、現状調査と目録作成から始めました。今後保存や顕彰方法を検討していきます。



ヤフ奴

初心者マークを付けた車や、街角で、慣れないスーツに身を固めた新入社員を見かける季節となり、本格的な春の訪れを感じる。若さが感じられ新鮮な印象で希望をもちたしてくる。自分にも、こんな時があったのだが、今は、もうどんな気持ちで、会社に行つたのか思い出す事も出来ない。「自立へと一歩を踏み出す、みんなが通る道」とはいえ、就職難の時代、何度も就職活動をして決まった人、なかには留年・浪人をして挑戦を続け決めた人もいます。

最近、就職について、気になる推計や話題を耳にする事があつた。二〇一〇年に大学や専門学校を卒業した五十六万九千人のうち、三割強が早期に離職。これに無職やアルバイト、中退者を含めると、ほぼ二人に一人が安定した雇用に結びついていないことになるという。高校では三人に二人のぼろという発表であつた。

悩みながら回り道をしている若者たちの姿が、見えてくる。私も、仕事で、そんな若者を何人もみてきた。現実には厳しく、学校であれ会社であれ、いったん辞めた人に対して、再挑戦のチャンスは意外に狭いようである。遅咲きの人に、極めて冷たい国と、海外の学者の評価もある。来年度から国家公務員も、新規採用を平成九年度比で半数まで減らすようで、ますます、若者は、厳しい状況のなか戦つて行かなければならない。頑張つてと応援しても、説教にしか聞かれないだろうが、桜の季節、花も人も遅咲きを、満喫できる春が来ることを願いたい。



最近トイレが近くて困っている方はいらっしゃいませんか。そんな方にぜひ聞いていただきたい講演会を去る二月九日竜丘公民館において開催しました。こばやしクリニック泌尿器科皮膚科医院長 小林康宏先生に講師をお願いし、「前立腺肥大症と前立腺がんについて」聴講しました。

小林先生は、プロジェクトを使って私たちにわかりやすく説明してください。

いきました。まとめとして先生は「前立腺肥大症や前立腺がん患者は、高齢の男性に多く年々増え続け、多くの男性が悩んでいます。現在は早期に発見して治療すれば普通の生活が送れるようになります。」

トイレが近くて困っていませんか？ 健康講演会開催される

日中に尿をする回数の多い方、夜中に何度もトイレに起きてよく眠れない方、急に尿がしたくなり我慢できずに尿を漏らす回数が多い方は、歳のせいだとあきらめずに、また身体の下のことなので恥ずかしさのあまり言い出せない方がいらっしゃいますが、まずはかかりつけの医師に相談してみてください。又、前立腺がん発見に有効な血液検査(PSA検査)も毎年受けてください。」と話されました。

今回の講演会は、厳寒期

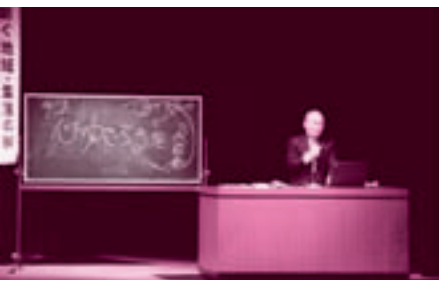
駄科の鈴岡公園入口交差点の信号が「歩車分離方式」の信号に変わる



の時「この信号は車両と歩行者の青が分離されています。発進する際は信号をよく確認して下さい」の電光掲示が流れています。

飯田市の公民館大会開かれる

田市公民館を支えている地区公民館の活動も大切ですが、もともと自分たちに身近な分館や集落の活動が大切であり、パネルディスカッションのなかでも、分館や集落のリーダーの育成が重要であることが話題となりました。



竜丘公民館宿直室にAED(自動体外式除細動器)が設置されています。万が一の際はお使いください。

行政が村を守る岳父ならば 公民館は村を育てる慈母である 「地域と公民館」を学ぶ会開催される



著者の木下陸奥さんと、社会教育・生涯学習研究所長の島田修一先生をお招きしての講演会が開催されました。この講演会は飯田市

公民館、竜丘公民館と、竜丘の住民有志によって開催され、当日は百十名の参加者がありました。そのなかで半数以上は地区外からの参加であり、県外からの参加者も多くみられました。

講演の中で木下さんが述べられた特に印象的だった言葉を拾い出してみると「自治会と公民館は車の両輪である」「地域自治組織の自治と公民館の自治とは違うもの」「自治とは自身自らが自覚して内から育つものである」と、自治の精神について私たちに問いかけている

開善寺の歴史を学び
―ふるさと学習会in上川路―

各分館へ出張して行なうふるさと学習会も五回目となり、二月二十一日の上川路分館で今年度最後となりました。

今回の学習会は、上川路の開善寺住職の玄樹和尚さんによる「開善寺の歴史」についてのお話をお聞きしました。

会場には地区外の十六名を含め三十五名の参加者で、関心の高さがうかがわれます。

平成23年度 竜丘地域づくり委員会決算

【10 歳入】					(単位: 円)	
科 目	決算額	予算額	比 較	説 明		
01 会費収入	0	0	0			
02 補助金および交付金	16,902,504	16,889,000	13,504			
1 パワーアップ交付金(交付金A)	6,015,000	6,015,000	0	飯田市からの交付金		
2 補助金(交付金B)	4,137,504	4,124,000	13,504	各種補助金		
3 自治会費	6,750,000	6,750,000	0	自治会からの補助		
03 繰越金	3,215,234	3,215,234	0	前年度繰越金		
04 繰入金	0	0	0			
05 寄付金	0	0	0			
06 預金利息	837	1,766	-929			
07 雑収入	521,278	438,000	83,278	手数料、使用料、謝礼ほか		
歳入合計	20,639,853	20,544,000	95,853			
【20 歳出】					(単位: 円)	
科 目	決算額	予算額	比 較	説 明		
	3,939,163	4,195,000	-255,837			
01 報酬	2,167,500	2,180,000	-12,500	委員報酬		
02 賃金	0	0	0			
03 手当	99,000	99,000	0	文書配達手当		
04 報償費	0	0	0			
05 旅費	0	0	0			
06 交際費	102,000	124,000	-22,000	慶弔費、交際費ほか		
07 会議費	475,589	504,000	-28,411	会議経費		
08 消耗品費	656,968	740,000	-83,032	事務用消耗品、印刷機消耗品ほか		
09 燃料費	0	0	0			
10 印刷製本費	0	30,000	-30,000			
11 光熱水費	0	0	0			
12 修繕料	48,399	60,000	-11,601	施設、備品等の修繕		
13 通信運搬費	20,920	20,000	920	委員への会議通知		
14 手数料	10,080	48,000	-37,920	振込手数料		
15 保険料	0	0	0			

科 目	決算額	予算額	比 較	説 明
16 賃借料及び使用料	172,032	150,000	22,032	事務機器等借上料
17 維持管理費	0	0	0	
18 備品購入費	96,075	100,000	-3,925	スクリーン購入費
19 雑費	90,600	140,000	-49,400	区への謝礼
	12,693,575	13,357,000	-663,425	
01 総務企画委員会費	2,724,858	2,930,000	-205,142	
01 総務企画委員会費	2,724,858	2,930,000	-205,142	
10 事業運営費	957,308	1,080,000	-122,692	諸事業運営費
40 負担金補助及び交付金	1,767,550	1,850,000	-82,450	補助金ほか
02 安全委員会費	1,654,811	1,688,000	-33,189	
01 安全委員会費	1,654,811	1,688,000	-33,189	
10 事業運営費	1,048,811	1,088,000	-39,189	諸事業運営費
40 負担金補助及び交付金	606,000	600,000	6,000	活動費(区委員会へ)、補助金
03 福祉健康委員会費	2,679,700	2,878,000	-198,300	
01 総務企画委員会費 地域福祉部会費	2,355,723	2,588,000	-232,277	
10 事業運営費	903,723	1,136,000	-232,277	諸事業運営費
40 負担金補助及び交付金	1,452,000	1,452,000	0	活動費(区委員会へ)、補助金
02 総務企画委員会費 健康推進部会費	323,977	290,000	33,977	
10 事業運営費	223,977	134,000	89,977	諸事業運営費
40 負担金補助及び交付金	100,000	156,000	-56,000	活動費(区委員会へ)
04 環境委員会費	932,090	1,078,000	-145,910	
01 総務企画委員会費 環境委員会費	932,090	1,078,000	-145,910	
10 事業運営費	169,206	328,000	-158,794	諸事業運営費
40 負担金補助及び交付金	762,884	750,000	12,884	活動費(区委員会へ)
05 公民館費	4,702,116	4,783,000	-80,884	
01 総務企画委員会費 公民館費	4,702,116	4,783,000	-80,884	
10 事業運営費	3,145,916	3,203,000	-57,084	諸事業運営費
40 負担金補助及び交付金	1,556,200	1,580,000	-23,800	活動費(区分館へ)、補助金
03 予備費	225,620	2,792,000	-2,281,380	
04 積立金	200,000	200,000	0	安全委員会、環境委員会積立金
歳出合計	17,058,358	20,544,000	-3,110,362	
次年度繰越金		3,581,495		